

会頭講演

「原点を見つめなおす―医師のための鍼灸セミナーから始まった東方医学会―」

清明院 院長

(一社) 北辰会 学術副部長

東洋鍼灸専門学校 非常勤講師

順天堂大学東洋医学研究会 講師 竹下 有

2023 年は、本学会にとって、前身の時代も含めると 50 周年の節目の年です。

1973 年、昭和を駆け抜けた天才外科医とも称される間中喜雄医師が、谷美智士医師と協力して立ち上げた「医師のための鍼灸セミナー」が、翌年に MSA 会 (Medical Study of Acupuncture) と名前を変えて活動を継続し、1982 年に至って、多くの会員の先生方の協力によって発足したのが、今日の日本東方医学会 (東方医療振興財団) です。

セミナー発足前年の 1972 年は、日中国交正常化、沖縄返還がなされた、日本戦後史の歴史的転換点であり、東洋医学の業界では、北里大学の東洋医学総合研究所が創立され、鍼麻酔のニュースが世界中に大きな衝撃を与えていた時代でした。

近年、鍼灸界の大きなテーマの一つに「医師との連携」があり、医療界においても「プライマリ・ケア」の重要性が盛んに叫ばれています。プライマリ・ケアと、鍼灸を含む東洋医学の親和性の高さはよく指摘されるどころであり、日本東方医学会では 2017 年から DAPA (Doctor, Acupuncturist and Pharmacist Association) という勉強会を立ち上げ、間中先生や谷先生が御自身の病院内で実践してこられたような医師と鍼灸師の連携を、地域全体、日本全国に広げるべく、月に一回、実際の症例をベースに、医師と鍼灸師を中心に、如何に連携を形成すべきか、という意見交換を行っております。

また、今大会のテーマである「医師・医学生と鍼灸」とも関わりますが、私自身の近年の活動として、2018 年から順天堂大学医学部において東洋医学研究会の講師を拝命し、師である藤本蓮風先生の活動を見習い、医学生に対して、東洋医学や鍼灸を教育する活動を行っており、これも今後、非常にプレゼンスを増してくるものと予想しています。

50 周年の節目の年に、今一度間中先生の事績を振り返り、原点を見つめ直しながら、この 50 年の流れを鳥瞰し、これからの本学会が如何にあるべきかを、皆様とともに考えてみたいと思います。